

令和5年9月2日(土)
(一社)北海道建築士会 第45回全道大会(北空知大会)
大会テーマ ～田園に浮かぶ都市(まち)から～

参加報告 楠 廣文

■ 大会式典(要旨)

- 1) 大会実行委員長(北空知支部長) 川田 昌宏氏 挨拶
農業を基幹産業とした田園風景の広がる北空知の地から、地域資源を生かしたまちづくりや持続可能な環境負荷の少ない省エネ住宅などを発信することで、地域に活力を与えるような大会にしたい…。



- 2) 大会長(北海道建築士会 会長) 高野 壽世氏 挨拶
いずれの支部においても大きな命題となっている「持続可能な環境で心豊かな暮らしを」サブテーマに掲げ、北空知の持つ様々な地域資源を生かしたまちづくりを、建築士の視点を通して皆様と共に考え、それぞれの地域の未来を探る機会としたい…。
- 3) 基調講演 独立時計師 菊野 昌宏氏 テーマ 私の時計作り
独立時計師:時計の設計・部品作り・組立てを行う時計職人。

深川市出身。高校卒業後、自衛隊に入隊。上官より見せて頂いた懐中時計に魅せられ、2年で除隊。

その後、江戸時代の「和時計」万年時計の部品作りの方法を知る機会があり本格的に時計職人を志す。2008年ヒコ・みづのジュエリーカレッジを卒業。

2011年季節の変化に伴って文字盤が自動的に移動する「不定時計の腕時計」が、スイスに本部を置く国際的組織「独立時計師アカデミー」に認められて準会員となり、2013年日本人初で最年少の30歳で正会員となる。

その後の活躍はTBS「情熱大陸」にも取り上げられる。

余談…時計の種類にもよるが、価格は400万円位からスタートとの事。



■ B 分科会 「北空知で学ぶ、エコなまちづくり」(まちづくり委員会)

- 1) 深川市役所新庁舎における ZEB の取組み…庁舎建設推進室 大槻氏
「人に優しいユニバーサルデザインを徹底した庁舎」
「環境に優しい空知初の ZEB 庁舎」等を柱とした様々な省エネ技術を駆使した仕様・設備について事例報告があった。

用語の定義→ZEB(ゼブ)とは…環境省 HP より

先進的な建築設計によるエネルギー負荷の抑制やパッシブ技術の採用による自然エネルギーの積極的な活用、高効率な設備システムの導入等により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することで、エネルギー自立度を極力高め、年間の一次エネルギー消費量の収支

をゼロとすることを旨とした建築物のことです。

2) ZEB を目指した賃貸住宅・住宅の建設事例について

株式会社森栄建設 代表取締役 森下氏
太陽光発電設備付きのオール電化アパートのスペックや電気・給湯冷房・通信・駐車場管理費全て込みの家賃設定をやり取りの事例紹介。

3) ひまわりのまちづくり(ひまわりの里基本計画)について

北竜町企画振興課長 南波氏
北竜町のひまわりにまつわる活動やまちづくり、観光振興並びに限研吾氏設計の「やわら保育園」等に関する事例紹介があった。

4) 沼田町空き家リノベーションの取組みについて

北海学園大学工学部 教授 岡本氏
学生主体の空き家改修について、沼田町の取組みの経緯と実施後の学生達の意識変化や課題等について事例報告があった。



■ あとがき

幸い行き帰りも含め好天に恵まれましたが、朝 4 時に出発して大会直行する…いわゆる「一泊二日の弾丸ツアー」は、かなりハードです。(>_<)

やっぱり、開催地には前日入りしてその夜は「安着祝い」。そこで 翌日の大会プログラムに臨むのがベストです。(*^_^*)

私は全く富裕層ではないですが、そのために多少宿泊費・飲食費が増えてもなんのその。(^^;)

車中の雑談や夜の歓談も良い思い出です>(*^.*^*)

参加回数を重ねるうちに、少しずつ顔と名前が一致する仲間が増えて楽しくなるのが全道大会です。

まだ一度も参加したことがない会員の皆さん、いかがですか! (^ ^)!

2023年9月2日

第45回 北海道建築士会全道大会（北空知大会）

A分科会「新田舎暮らしはくらしやすいまち」をキーワードに

本分科会は参加者が少なめの14名、それに対してコメントーターが9名と多かったため対談形式で意見交換を行う形で行われた。

コメントーターは地方から深川への移住者と移住促進の担当市職員、そして地域おこし協力隊。比較的深川に近い北海道内からの移住もあれば京都など全く気候風土の違う街からの移住者もあり、様々な意見を聞く事ができた。

特に印象深かったのは60代の現役ダンサー（バレリーナ）の発言。セントバーナードを飼っており、近年暑さのために1匹が死亡したことをきっかけに北海道への移住を考えるも、道東（オホーツク方面）への移住を検討中、女性が一人で移住する事に対して移住サポートセンターから歓迎されず、深川の対応が抜群に良かったために移住を決意。住んでみると田園風景の中での生活は芸術活動にうってつけであり、しかも中心部へのアクセスも良い事から大変満足であるとの意見が語られた。

札幌や旭川に近く、日常の買い物に不便を感じるほどの田舎でもない深川市は、都会からの移住者にも、終の棲家を求める高齢者にも選択される都市であることが良く理解できた。

人が静かな環境で人間らしい生活をする事のすばらしさ。地域のものを地域で手に入れて味わえる幸福感。そんなことを移住してきたコメンテーターが各々感じている事が伝わってきた。

ただ、移住するためには「生活する」と言う事も大きく関わることも報告されていた。仕事がなければ若い人の移住は難しい事も確かであり、地域おこし協力隊以外の現役世代のコメンテーターからは「仕事があること」「収入があること」が移住と結び付くとの意見も出ていた。

のどかな田園風景を眺めながら のんびりとした生活をする事ができるのは、やはり限られた世代の人たちなのかもしれないとも感じ、世代の偏りなど移住における問題点も垣間見え、意義深い分科会参加となった。

追記：分科会終了後、コメンテーターの一人が経営する菓子店へ行ってきました。道の駅でも販売されている焼き菓子を作っていて、バター餅やバームクーヘンが人気のお店。しっかり買い物もしてまいりました～（金子）



第45回北海道建築士会全道大会（北空知大会）

2023年9月2日

C分科会「雪と共生するまちづくり」

報告：青年委員 委員長 加藤寛基

本分科会は前日の青年サミットに続き沼田町で開催された。

テーマにも掲げられていることから、雪のもつエネルギーを利用した街づくりが行われていることが感じられ、会場となった沼田町生涯学習総合センター「ゆめっくる」もその一端を担っている。

今回の講演のテーマとして「利雪：雪のもつ冷熱効果を利用し、夏季の冷房負荷を軽減させること」を軸に進められ、その背景としてローカルな多雪地域における課題も影響することとなる。

【利雪について】

分科会ではまず利雪の特徴及び効果について触れられた。

利雪の利用のためには雪の保存場所の確保が重要であり、①貯雪庫による保存、②雪山による保存があげられ、前者では施設の大型化する傾向があること、後者は雪山の表面にバーク材（木の樹皮のみを粉碎したもの）やもみ殻をシートで覆った上にかけていると語られた。

空調の活用としては、①空気の温度差で自然対流させる方法、②送風機を用いて強制的に冷風供給する方法、③強制的に解かした雪解け水をポンプを用いて熱交換器に供給する方法がありそれぞれの特徴を踏まえて施設利用が進められている。本施設は③の方法による空調計画であり、貯雪庫が併設され、内部には町民向けに冷蔵保管庫として提供されているスペースも設けられている。

実際の利雪の効果として、半永久的な利用、省エネルギー効果（雪1t＝石油約10L）、地球温暖化対策に貢献（CO₂の排出を約30kg抑制）があげられる。本システムは公共施設だけではなく、一般家庭や個人店舗にも普及し町をあげて取り組んでいる。

【沼田町の抱える問題】

こうした利雪の推進には沼田町の環境や町が抱える問題が関係していると続く。

沼田町は過去10年間の年間降雪量が平均10mで道内4～5番目の積雪量を記録し、年間最大積雪深さは174cm（最大で200cm）と屈指の多雪地域である。

年間除雪費用が札幌市と比べると少額なもの、人口比では数倍も沼田町の方が高く、少子高齢化が進む状況で、やっかいものの雪と共生する道を選んだとのこと。町としても雪と共生するまちづくりに関する宣言を出し、利雪技術に関する研究機関も設け、この問題に正面から立ち向かっている。

【施設見学】

分科会の会場が雪冷房されていたが、エアコンといったよく体感する空調と比べ、冷風が噴出されているものの、風を感じることもなく、また同様に空気が冷やされ、30℃近い外気温ではあったが快適に過ごすことができた。中には半袖では寒いとの声も聞こえたほどである。

貯雪庫は長時間の開放は雪が解けてしまうことから少人数のグループに分かれて内部の見学を行った。冷蔵スペースと町民向け冷蔵スペースに分かれ、大量の雪が保管され、冷蔵庫と同じような感覚になった。

第45回北海道建築士会全道大会（北空知大会）

【感想】

本分科会を通じて様々な発見や驚きがあった。

今回利用している雪氷熱は新エネルギーに分類されるそうだが、そもそも新エネルギーとは非化石燃料であり、かつそれ単体では経済的に成り立たないものに限定され、ダムでの発電は経済できているためこれにあたらぬとすることに驚いた。

雪冷房の技術がかつて冷蔵庫の無い時代の食料保存方法に近しく感じたが、地域の特性を活かした活動であり、産業を含めた沼田町の方々の暮らしにうまく取り込まれているところが、素敵にみえ、うらやましくも感じた。

屋外雪堆積場は行政だけではなく一般にも開放され、雪1t当たり1,000円から販売され供給期間は4月から10月まで設けられ、購入希望の連絡を窓口へ行くとトラックで運んできてもらえる。まさに灯油配送のような仕組みが作られていることに驚いた。

こうした雪利用は雪冷房だけではなく、雪を使用したイベントにも用いることができ、分科会翌日も沼田町役場前の駐車場にて雪合戦イベントがあるとのことで、実際に夏季の雪イベントを見てみたかったなど少し残念であった。

最後に「日本の国土の約50%は降雪地帯＝雪国であり、その中に人口の約16%が日常生活を送っている」という投げかけで分科会は締めくくられた。

第45回北海道建築士会全道大会（北空知大会）



第45回北海道建築士会全道大会（北空知大会）

